

上野1号墳・上野遺跡現地説明会資料

平成 29 年 1 月 14 日 四日市市教育委員会

●所在地: 四日市市大字西阿倉川 ●調査期間: 平成 28 年 12 月 1 日～平成 29 年 1 月 20 日(予定)

●調査原因: 宅地造成 ●調査面積 400 m²

●遺跡概要: 上野遺跡は、海蔵川左岸、阿倉川台地の南端に位置する弥生時代から室町時代にかけての集落跡です。宅地造成に伴い、平成元年(1次調査)と平成2年(2次調査)に発掘調査を実施し、弥生時代の集落と同時期の方形周溝墓が検出されました。古墳時代の遺構は、1次調査では、前期の遺構として竪穴住居跡11棟、後期の遺構として竪穴住居跡1棟が検出されています。隣接する2次調査区では、古墳時代後期の遺構・遺物は検出されていません。今回(3次)の調査区は、2次調査区の南、1次調査区の南東にあたり、宅地造成にかかる道路部分及び削平部分を調査しました。



上野1号墳・上野遺跡位置図(1:25000)



石室内の遺物出土状況(北西から)



台付直口壺(1号墳出土)

●調査の成果

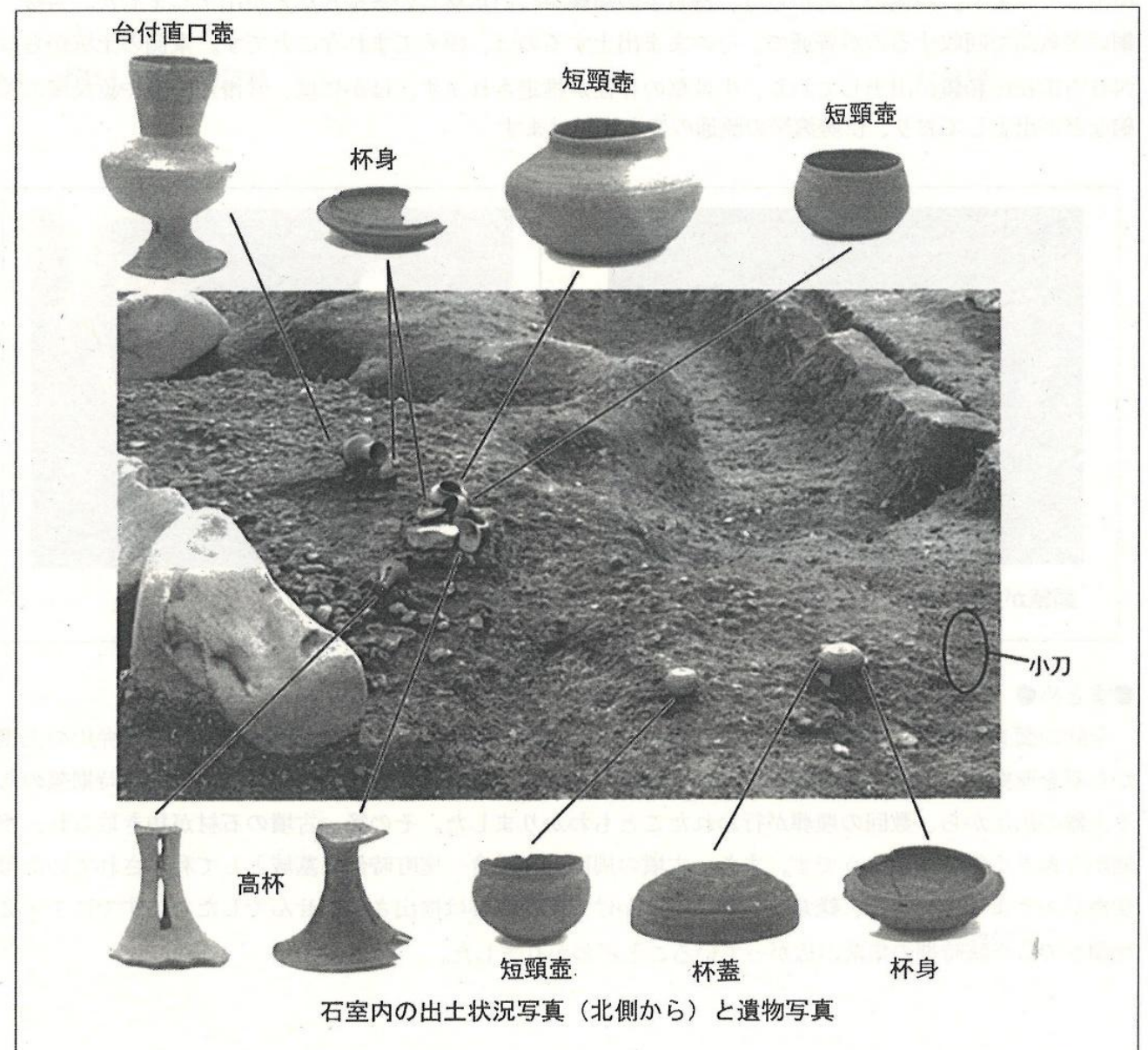
主な成果として、古墳時代後期(7世紀前半)の横穴式石室を有する古墳と室町時代の土坑を検出しました。

●上野1号墳●

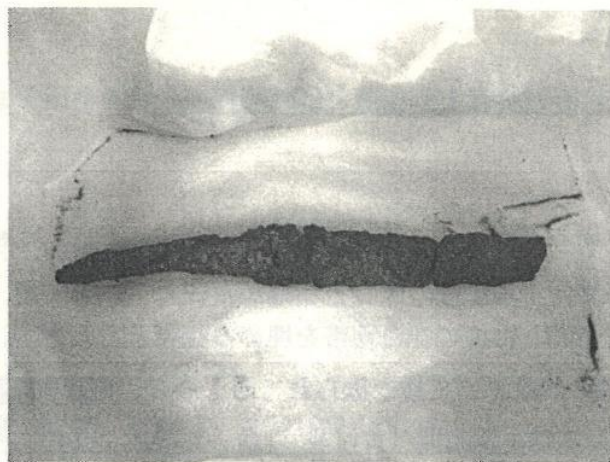
この地域(阿倉川台地)の古墳は、東北東1.3kmに四日市市唯一の前方後円墳の志氏神社古墳(4世紀、前方部は削平)と、海蔵川右岸には西2.0kmに御館野台地東端の大谷古墳群が存在していますが、これまで、その間の古墳は知られていませんでした。いわば、古墳の空白地帯を埋める発見と言えます。

古墳主体部は大きく削られており、横穴式石室の西側の石はすべて抜き取られてるものの、東側の基底石が南北方向に沿って5つ残存し、床面の礫層の中央部には、須恵器(台付直口壺、短頸壺、高杯、杯身、杯蓋など)が供えられていました。北側からは、小刀や白玉も出土しました。石室の大きさは長さ6.5m、幅1.6m前後、玄室と羨道を備えた、この地域では大きな古墳であったと推定されます。

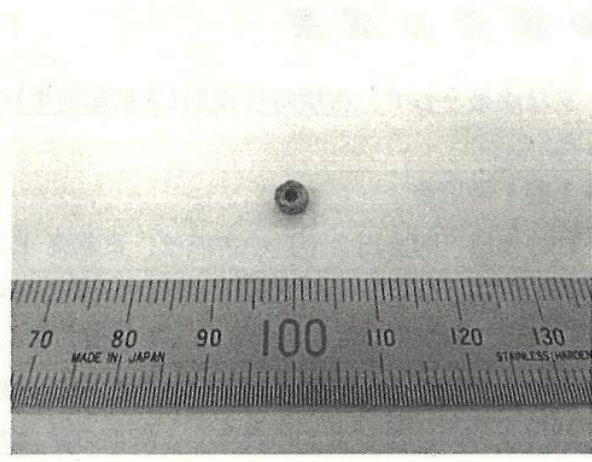
石室の基底石は、数百kg前後の石が使われており、花崗岩が多い鈴鹿山脈では珍しい砂岩が使われていますが、海蔵川流域で産出されたものではなく、員弁川上流域のものと考えられます。



石室内の出土状況写真(北側から)と遺物写真



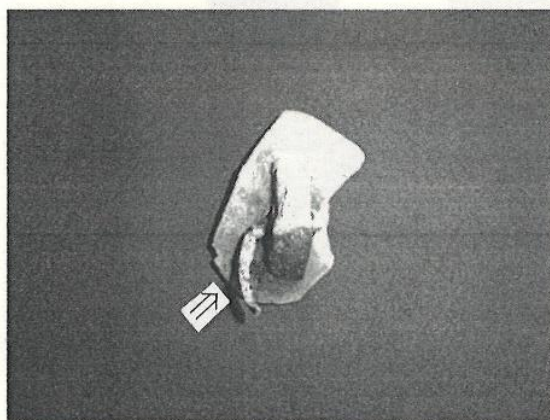
小刀（鉄製）・・・石室内から出土



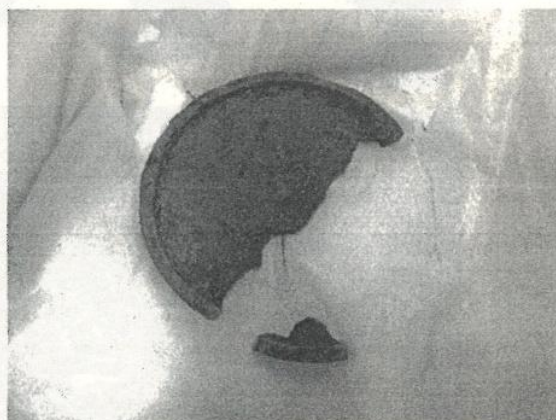
白玉（滑石製）・・・礫床から出土

●中世の遺構●

中世の遺構としては、土坑 20 基を検出しました。鎌倉～室町時代にかけてのさまざまな土器や陶器が出土しています。西側の土坑からは、持ち手の銅線がついた珍しい茶釜片などが出土しました。当時、銅は貴重品で回収するのが普通で、そのまま出土するのは、極めてまれなことです。東側の土坑からは四日市市初^{わきょう}の和鏡^{わきょう}が出土しており、中世墓の存在が推定されます。ほかには、常滑^{とこなめ}産の甕^{かめ}や猿投^{さるげ}産の茶碗^{ちawan}などが出土しており、伊勢湾岸の流通の姿を裏付けます。



銅線がついたままの茶釜片

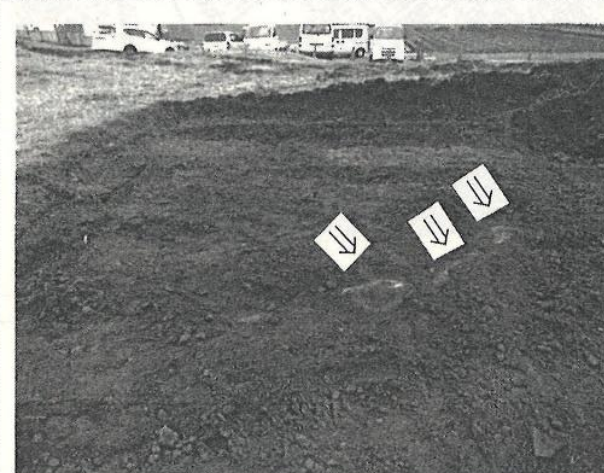
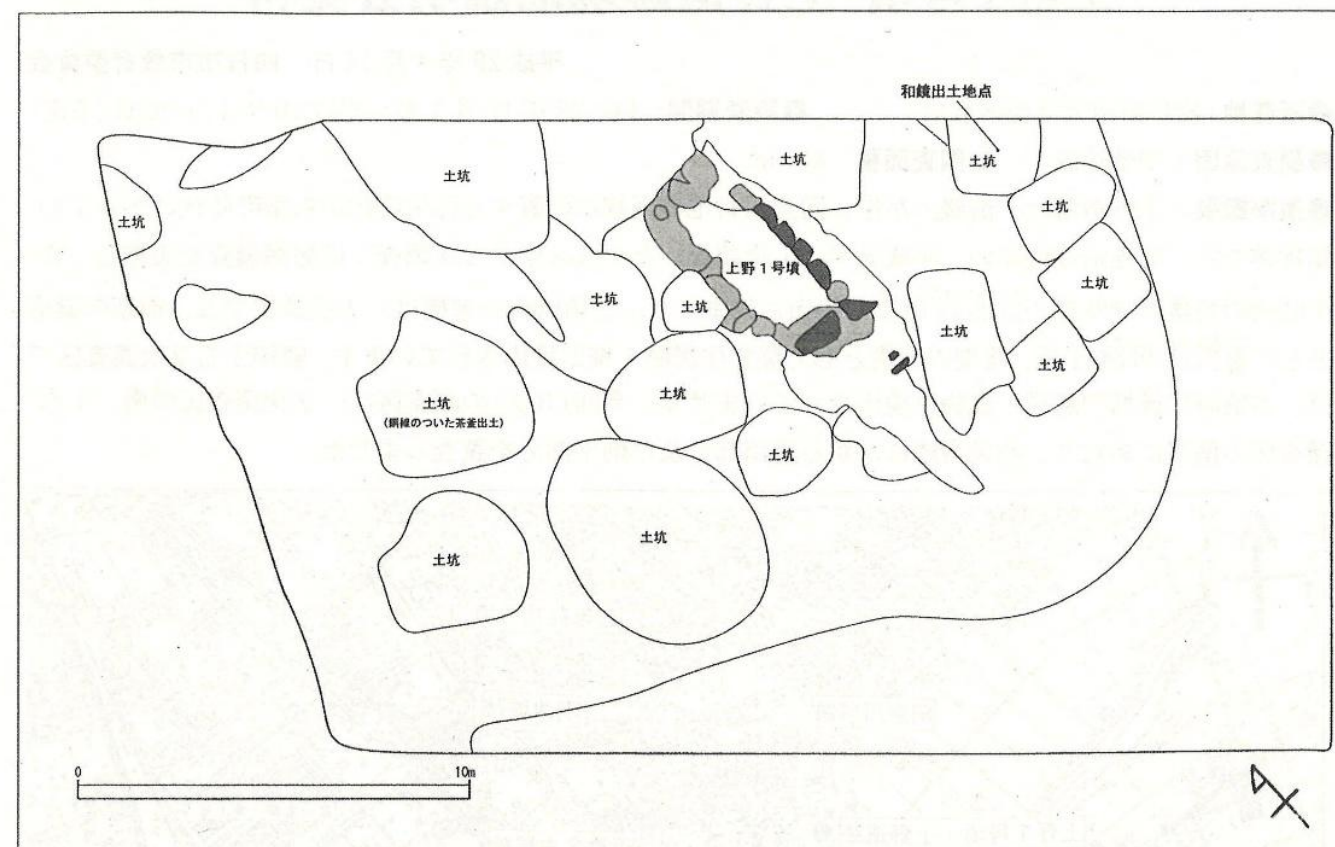


市内初出土の和鏡

●まとめ●

今回の調査の結果、古墳時代にこの地域を治めた有力者が存在し、7世紀前半に、遠く員弁川の上流から石を運搬して、横穴式石室を備えた古墳が作られましたことが確認されました。また、時期差のある土器の出土から、数回の埋葬が行われたこともわかりました。その後、古墳の石材が抜き取られ、西側から大きく削られたようです。また、古墳の周囲は、鎌倉～室町時代に墓域として利用されていた可能性があります。今回は、鎌倉～室町時代にかけての住居跡は検出されませんでしたでしたが、すでに1・2次調査では当該時期^{とうがいじき}の集落が広がっていることがわかりました。

●遺構配置図



表土を除去中、姿を現した石組（古墳の石室）



遺構検出中、姿を現した須恵器

上野1号墳・上野遺跡 現地説明会資料 平成29年1月14日

四日市市教育委員会 社会教育課 〒510-8601 四日市市諏訪町1番5号

Tel 059-354-8240 Fax 059-354-8308

※ 本資料の掲載内容は調査中のものであり、今後の検討によっては変更が生じる可能性があります。ご了承ください。

かいぞう歴史ロマン～上野遺跡で大発見！～

あなたは、知っていますか？

大字西阿倉川字上野で行われた、発掘調査（3次調査・平成28年度）で大発見があったことを…。

今では住所に「小字（こあざ）」を使うことはなくなりましたが、海蔵神社の西側に「字上野（あざうえの）」と呼ばれる場所があります。

遺跡が見つかったと、その場所の「小字」から遺跡名が決まることから「上野遺跡」と呼ばれています。

今回の調査では、古墳時代（約1400～1350年前）に造られた「横穴式石室がある古墳」と平安時代末～室町時代（約850～500年前）にかけての「様々な道具や生活の跡」などが発見されました。

なかでも、「和鏡」は四日市市市内で初出土の大発見！！

平成29年1月14日に、現地説明会が行われ、雪が降る寒い日でしたが、たくさんの方が参加しました。

「横穴式石室」の東側には「基底石」が南北方向に5つ真っ直ぐに並んでいました。「基底石」は1つ数百キロ前後の石が使われていましたが、海蔵川流域で産出されたものではなく、員弁川上流域から運ばれた青川石と呼ばれる石でした。これは、水運を利用して大規模な古墳を造るほどの有力者が、この地域に存在していたことを裏付けています。



「和鏡」には、菊花に鳥の図柄が！

「基底石」は、太陽が真上に来た時に、ぴったりと真南を指していたそうです。古墳時代に天文学や高度な測定技術もあったことがうかがえます。

現地説明会では、発掘された「和鏡」も見ることができました。茶色く、まだ汚れが付いていました。

発掘当時「横穴式石室」の床面には、須恵器の台付直口壺、短頸壺、高坏、坏身、坏蓋などが供えられていました。

今回の発掘調査より北側で行われた、1次調査（平成元年）と2次調査（平成2年）では、弥生時代の集落跡も見つかっています。このことから様々な時代の人たちがこの土地で生活を続けていることが想像できます。今、暮らしている私たちも「海蔵地区」の歴史を学び、未来へと繋げていきたいものです。

※「和鏡」の写真は四日市市教育委員会提供

7世紀前半の古墳発見

四日市の上野遺跡



古墳の跡が出土した上野遺跡＝四日市市西阿倉川町で(四日市市教委提供)

四日市市西阿倉川町の上野遺跡で、七世紀前半の古墳が見つかった。市教委が六日、発表した。市の中心近くで古墳が見つかるのは初めてといい、担当者は「古墳の空白地帯を埋める発見」としている。

(吉岡雅幸)

石室跡や高杯が出土



出土した金属製の鏡や銅線が残る茶釜の破片を紹介する担当者

市教委社会教育課によると、宅地造成による昨年十二月から二月月間の調査で、一万五千六百平方メートルの遺跡のうち四百平方メートルを発掘した。横穴式の石室跡とみられる一辺前後の砂岩六つが出土。年代の異なる複数の須恵器のつばや高杯、鉄製の小刀も見つかった。

上野遺跡は一九八九年の調査で、各年代の集落跡が見つかった弥生・室町時代の複合遺跡。今回出土した遺構と出土物から長さ六・五メートル、幅一・六メートルの石室を備えた古墳だったと判

14日に現地説明会

断し「上野一号墳」と名付けた。墳形は不明だが、市教委は石室の大きさから同時代の中では大規模で、この地域を治めた強力な首長が数世代にわたって埋葬されたとみている。

石室の周りからは鎌倉・室町時代の金属製の鏡や土師器、陶器も出土した。持ち手の銅線がついた茶釜の破片は、県内でも珍しいという。

十四日午前十一時から現地説明会がある。参加無料で事前申し込み不要。市社会教育課 059(354)8240

青銅製和鏡を展示



四日市市内で初めて見つかった和鏡＝市教委提供

平安・鎌倉時代の青銅製和鏡が四日市市内で初めて見つかり、久保田の市立図書館で公開されている。市内の出土品を並べる「発掘展」の展示品の一つ。同展は前後期に分かれ、前期最終日の二十日まで紹介されている。

和鏡は直径八センチ、厚さ一・五センチ。半分ほど欠けている。キクの模様が円形に配置され、中央部には飛ぶ鳥が二羽描かれている。弥生時代・中世の複合遺跡である西阿倉川の上野遺跡で一月に発見された。

年代は各地の出土例を参考に推定した。似

発掘展前期展

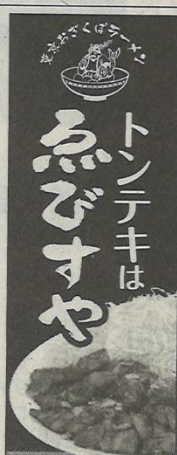
た鑄型が京都で見つかったおり、京都方面で作られた可能性がある。身分の高い人が所有していたとみられる。

市教委担当者は「鏡町」、四日市代官所跡は宝物として継承され(江戸時代、北町)なるか、金属品として再利用されることが多

市内初 上野遺跡で発見

後期は二十三日～九月二十四日。久留倍遺跡の出土品を中心に紹介する。

発掘展は夏休みの子ども向けに市教委が開催し二十回目。無料。担当者は「地元で遺跡を身近に感じてほしい」と話す。市教委 059(354)8240



6店舗好評営業中!
www.r-ebisuya.co.jp